

棚でみつけた気になる本を読んでみた

# 文豪図鑑

開発社 編集/ 自由国民社 2016年刊

F「今回は小説ではなく、図鑑です。文豪の美麗イラストと、人物解説・作品解説が掲載されている、という体裁ですね」

M「まあ、まず目に飛び込むのがその麗しいイラストなんだけど・・・」

A「なぜ江戸川乱歩がマフィアのような金髪チャラ男なんですか？」

M「まーまー。うまーく特徴を活かしているイラストもあるのよ。たとえば梶井基次郎は著作『檸檬』にちなんでレモンを持っている」

F「『夫婦善哉』の織田作之助はぜんざい持ってます」

A「そのまんまじゃないですか!？」

M「まあまあまああ(笑) 代表作に関連する物を持ってただけじゃないのよ。『風立ちぬ』『菜穂子』などを書き自身も病弱だった堀辰夫は、吹けば飛ぶような線の細い美青年として描かれています。見よ」

F&A「(本を覗き込み) ……おお～」

M「このイラストを見ていると浮かんでできませんか……? 『まあ辰夫さん、起き上がっても大丈夫なの?』と心配する看護婦さんが」

A「!?!」

F「浮かんでます……! 病室の窓辺で『大丈夫。今日は気分がいいんだ』と微笑む美青年の姿が!」

A「えっちょっとFさん?」

M「ある日いつものように辰夫の病室へやってくる恋人。静かに眠る彼」

F「『今日は調子がよさそう。咳もなくて…』と近寄る恋人」

M「布団をなおそうとしてハッと手を引っ込める恋人!!」

F「『……辰夫さん?』」

M「辰夫さーん!!!」

A「息を引き取っている……!?!」

M「『見て……まるで眠っているようよ……』」

A「ツッコミが追いつきません!! って、堀辰夫のイラストの妄想しかしてないじゃないですか! 他にも見どころたくさんあったでしょう!?!」

M&F「続きはWEB(※ブログ)で!!!」

A「まだ続くんですかーっ!?!」

F「なかなか楽しい本ですよ、文豪図鑑! 読んでみてね」

910.2/カイ



# ホンダラケ

H29.2.01.

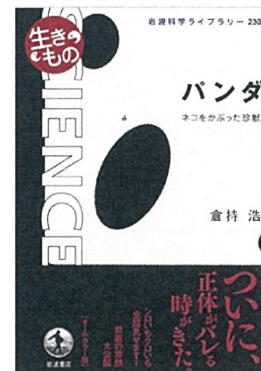
今年もブイブイ行きますよー  
<http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>

## わたしのあきにいり

今回は趣向を変えて、我々YA担当3人がそれぞれ棚をひとつ受け持ちます。それぞれが好みに棚を飾りつけ、POPを書いて皆さまをお待ちしています。それぞれの個性ですから、少々おかしな方向に向かっていてもご愛嬌。

## パンダ ネコをかぶった珍獣 489.5/14

倉持 浩:著 岩波書店 2014年刊



パンダが好きです。パンダの飼育係だなんて、なんてエリートなのでしょう!! パンダと言えば愛らしく何の害もない生き物と思われていますが、実はその垂れ目模様の下は鋭い眼光が! そんなパンダのいいところも悪いところも全て見てきたパンダの飼育員さんが、パンダの隠された素顔を紹介してくれる本書。パンダの白黒模様を消すとただの悪い顔の熊だったなんてほんとにサギ。

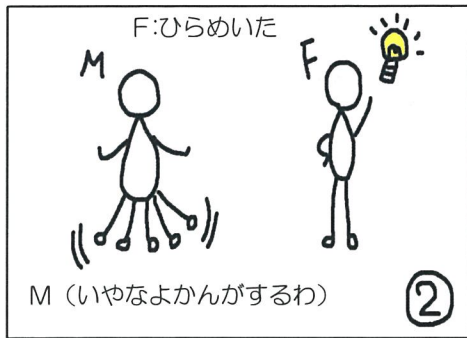
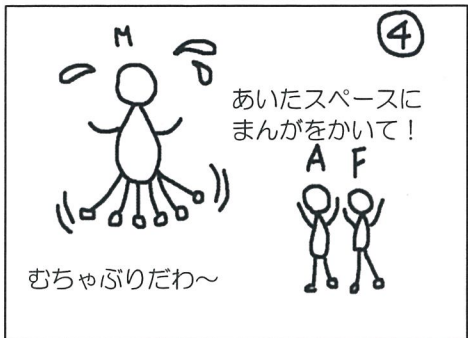
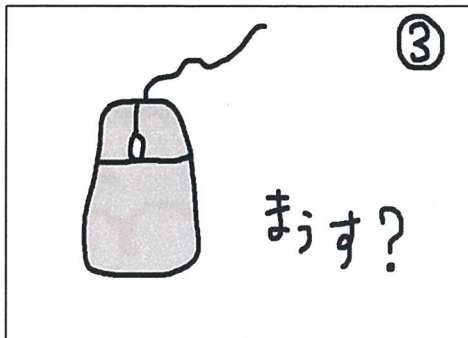
## ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。(もちろん、大人の方も読みいただけます) 2か月に1度、年6回発行予定です。皆様が手に取りたくなる誌面にしてまいります。ご期待ください。



# YAよんこま

「マンガがほしい」という投稿が多かったのでお答えしました。はたしてこれでよいのか。



図書館委員さんはインフルエンザの影響で原稿が書けなかったそうです。来月からはまた本の紹介をのせますのでお楽しみに!

F&A「なんというクオリティの低さ」M「勘弁してください…」

# 新着本Pick Up 葉桜と魔笛



F/ダザ

太宰 治:著 紗久楽さわ:絵 立東舎 2016年

18歳の美しい妹は余命わずか。儂い身を悔やんで、「もっと恋したかった、死ぬなんていや」と訴える様が切ない太宰治の短編に、幻想的なイラストが付きましました。姉の回想の形で進む文章は、イラストのせいでしょうか、文字だけで読むよりミステリアスさが倍増です。姉妹が聞いた軍艦マアチの口笛は一体誰が・・・?

## YA新着本

請求記号	タイトル	作者名
367. 9/16	感染症医が教える性の話	岩田 健太郎
402. 9/16	北極・南極探検の歴史	Maxine Snowden
F カワ	花咲高校演劇部へようこそ!	河合 ゆうみ
F マキ	月とライカと吸血姫(ノスフェラトゥ)	牧野 圭祐

# リサイクル予備軍

## ネモの不思議な教科書

ニコル・バシャラン&ドミニク・シモネ:著  
永田千奈:訳 角川春樹事務所 2000年刊



ある日交通事故にあったネモ(フランス人)。目を覚ますと、すべての記憶を失っていた!ガールフレンドのことも、感情も、言葉の意味も…。ネモは失われた11年間を取り戻すために、叔父のガスパールとともに旅に出る。それは人類の歴史そのものを振り返る壮大な旅でもあった。果たしてネモは記憶を取り戻すことができるのか!?“教科書”とはあまり楽しそうにない響きですが、ネモの旅の物語を楽しみながらフランスの歴史や地理などを学べるお得な本です。ネモと一緒に地球の歴史を振り返りながら、「自分とは何か」を考えるきっかけになりますよ。953/バシ

# 執筆者の腕がひたすらに試される 名作本コラム 『1984年』 ジョージ・オーウェル

新庄哲夫:訳 早川書房 1972年刊

“ビッグ・ブラザーがあなたを見ている!”

舞台は近未来。第三次世界大戦後世界は3つに分かれ、未だ争っていた。超大国「オセアニア」ではビッグ・ブラザー→率いる党が人びとの生活を監視下に置いていた。そこに思想などの自由はなく、反体制的なことを頭に思い浮かべただけで<思考警察>に逮捕されるのだ。究極の監視社会を描いた物語としてさまざまな作品に影響を与えていることが読んでいてわかります。1949年に発表されたとは信じられないほど新鮮味があり、現代社会に通ずる面が多々あるので恐ろしさを感じます。すべてが管理される社会。それは私たちの未来なのでしょうか。ぜひ考えながら読んでいただきたい作品です。



933/オウ